

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホームホームタウン宝木(楓ユニット)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563-31		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成29年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、ご利用者様と向き合い観察力を持ちケアにあたっている。勉強会を開催(ユマニチュード)を理解し実践に生かせるよう努力しています。急変時の対応もスタッフ、Dr、Nsと迅速な対応が実践できるように、ご利用者様への負担のないケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「ともに健やかに、ともに笑顔で、その人らしく」は職員の日々のケアの目標になっている。医師、訪問看護師等医療との連携や、日常的に職員が行う歩行訓練、筋力体操等のケアで利用者は健やかに安心して過ごすことが出来ている。利用者をひとりの人として先輩として敬意を表す接し方や、利用者、職員共に笑顔がないといいケアができないと笑顔を引き出すケアを心掛けている。利用者一人ひとりに担当の職員がいて利用者の希望を聞いて計画する買い物やドライブ、外食等の外出も多い。担当者だけでなく職員全体で利用者の声を聞く努力を惜しまず、会話の中で聞き取った希望からグルメ会、一泊温泉旅行、ディズニーランドへの日帰り旅行などが実現された。食事は毎食職員の手作りで利用者の好みを聞きながら、季節の物を取り入れ彩りを大切に作られている。医療、家族、事業所との連携で看取りも行い、看取りに不安な職員を個別に支えながら利用者の終末期に真摯に向きあっている。自治会に入会しており、地域のイベントに利用者が参加する機会も増えたが、さらに地域との関係を深めるために、地域の人に来てもらえるような事業所のイベントを企画したいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホームホームタウン宝木(桜ユニット)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563-31		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成29年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員のプチ勉強会を開催し、ユマニチュードについて理解と実践をしている。ご利用者様との向き合い方をより密にし、ご利用者様の理解を深めケアに生かせるよう努力をしている。体調管理についても、少しの変化にも気づけるようアンテナを高くし大事に至らないよう心がけ連携をとっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(楓ユニットの評価票に記載)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設職員として生活しながら、地域社会の一員として個々の日常生活が自分らしく送ることが出来るよう支援している。	事業所理念「ともに健やかに、ともに笑顔で、その人らしく」を事務室に掲げて日々の支援の目標としている。かかりつけ医、訪問看護師、家族と連携し、利用者が安心して健やかに生活出来るよう配慮している。利用者と職員が共に笑顔がないと良いケアができないと、笑顔を引き出すケアを常に心掛けている。その人らしくあって欲しいと利用者一人ひとり対応を工夫し、担当者だけでなく全職員で意見を出し合い支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として近隣の方々との交流を持てるよう、理髪店・商店等への利用をさせて頂き交流を深めている。自治会への協力としてゴミ拾いなどに参加している。救命救急の講習の際には、自治会の方にも参加して頂いた。	自治会に加入して、地域の運動会や敬老会等に招待され参加することで外出の機会が増えた。利用者と職員と一緒に事業所付近のゴミ拾いをしたり、届けられた回覧板を利用者が見たり、どんど焼きの材料を自治会から届けてもらい、幼稚園児と団子作りをするなど地域とのつきあかも広がっている。また、利用者が事業所近くの美容院を利用したり散歩の時商店に寄ったり事業所で使う米を近隣の米屋で購入したりと地域の方々との交流に努めている。	前回の外部評価調査後、目標達成計画として「自治会会議、自治会イベントへの参加の機会を増やし、地域の方との共有できる機会を増やしていく。ご利用者様とのイベントの開催を出来るようにして行く。」を掲げ取り組んだが目標達成には至っていない。地域の人と事業所との距離を縮めるための地域に向けてのイベントをぜひ実現して欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月1度の広報誌にホームタウン宝木で生活している方々の様子を掲載し、ご家族さまと運営推進委員会のメンバーに配布行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、奇数月に1度開催し施設行事等を写真や広報誌を使い説明しご意見頂いている。	運営推進会議の参加者は事業所職員、地域包括支援センター職員、民生委員と利用者が主で、曜日や時間を変更して家族の参加を呼びかけてみたが参加は得られなかった。引き続き家族とコミュニケーションをとりながら呼びかけていきたいと考えている。運営推進会議に、地域の人と利用者との楽しい時間を過ごせるイベントの企画や災害時に助け合える関係づくりを提案したいと考えている。	運営推進会議で、事業所と地域の関係を深めるための課題や、地域の理解や支援を得るために運営推進会議で何が出来るか、事業所が地域のためできることは何か等、積極的に話し合い、地域との関係が深まることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に行っていない。	市職員の運営推進会議への参加を担当課に依頼したが、全事業所に対応できないからと断られた経験がある。担当課とは外部評価の評価結果を届ける時や提出物の内容の不明点について質問する時など事務的な関わりに限られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。施設内・外で勉強会や研修を行っている為、職員の理解も浸透しているため身体拘束を行わないケアにつながっている。	行政主催の研修会に参加したり事業所のユニット会議で拘束について学んだりしている。スピーチロックは言葉の暴力であることを認識するとともに、職員が気づかずに使ってしまった時には職員同士がお互いに注意しあえる関係作りを目指している。スピーチロックを使わずに職員の気持ちを利用者に伝えたい時には、利用者を不安にさせないよう声のトーンにも気をつけ、理由を利用者にわかるよう穏やかに伝える対応を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内・外での勉強会・研修などに多く参加していることもあり職員の意識も高くなってきているのか職員同士で注意し合える環境になってきている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内・外での勉強会・研修などに参加しているが、職員によっては理解に個人差がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や相談の際、ご家族が納得頂けるまで説明を行っている。利用中であっても定期的に状態の報告を行う。ご家族の要望があれば、不明な点がないよう説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年法人全体でのご家族へアンケートを実施している。面会時や電話連絡があった際などにご意見・要望など伺っている。	毎年実施している家族アンケートには具体的な家族の要望や意見はでてこないが、利用者との会話の中から「おいしいものが食べたい」と言われたことからグルメ会を実施したり、「たまにはゆっくり温泉につかりたい」という希望が聞けたことから一泊温泉旅行を実現するなど、利用者の要望を支援につなげている。一泊旅行に行けない利用者にも要望を聞きながら外出支援を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やユニット会議などで、職員からの意見をきく場を設けている。	年2回の個人面談では職員が悩み事を率直に相談している。月1回のユニット会議でも職員は意見が言いやすいと思っており、利用者に対する言葉使いについてお互いに注意しあい、ケアについてのアイデアや提案が出た時は試してみて意見を出し合い納得出来るまで話し合っケアの統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが人事考課表・目標管理シートを作成し、それに内容にそった個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修・勉強会への参加、チューター制度の導入。新人職員には個別での研修・勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修・勉強会への参加を通じ同業者との情報交換・サービスの質の向上には取り組んでいるが、ネットワーク作りへの展開へは至らない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者様と密な面接を行いアセスメントを実施している。また、入居前に不明な点がある時にはその都度電話等にて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際には、不明な点・不安感のないようご家族が納得のいくまで面談・電話連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族様の要望等をよく伺い支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他利用者様と一緒に家事を行ったり行事に参加することで共通の話題の提供が出来、利用者様同士の談話につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には近況報告を行い、変化があった時には電話連絡をしその都度報告・相談をし協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に、入所している事を知らせていない方がほとんどな為面会はご家族以外ほぼない。 自宅が近所の方は、馴染みのお店への買い物支援を行っている。	入居前に通っていた美容室に家族と一緒に通ったり、散歩時に馴染みの店に立ち寄りたりする利用者がいる。馴染みの人がほとんど訪れないため毎週訪問する看護師、時々畑の世話に来てくれる民生委員、2週間毎に往診する医師もみな馴染みの人になっていて、利用者は再会を喜んでいる。ドライブ中に利用者が見たことがある風景に出会ったのをきっかけに、昔買い物をしたデパートや馴染みの場所の話に発展することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作りには十分配慮している。 時には職員が利用者様の間に入り関わりを促したり、トラブルを避けられるように気配りが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でもご家族からの相談等があれば出来る限りの対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子を会議等で話し合い、時にはご家族に報告・連絡・相談を行い把握に努めている。	利用者と一対一になれる入浴や個別外出外食、個別ケア(手足のマッサージ、体操)の時等ゆっくり話を聞き要望を聞き取っている。利用者が不安を抱えている時に声をかけてゆっくり話を聞くと本音や要望を聞き取れることがある。聞き取った要望はユニット会議等で話し合わせ、ドライブや外食、一泊旅行などの支援が実現できた。一泊旅行の時、卓球に熱中する利用者の楽しそうな表情や、車椅子の利用者が立ち上がって卓球をする動きを見て、利用者みんなで楽しみたいと卓球台を購入した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの話や、また以前利用していた施設の方などより話を聴き把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、表情・様子・会話等から、その時の心身の状態を確認し、モニタリング・アセスメントを参考に会議等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や、変化があった時には電話で報告しその都度意見を伺う。また会議の際に意見を出し合いそれらを基にしている。	利用者や家族から聞き取った情報を基に計画作成担当者がプランを立て、利用者と家族が確認し、ケアを実施して1ヶ月後に最初のモニタリングを行う。次は3ヶ月後、その後は6ヶ月毎にモニタリングを行う。モニタリングは利用者の担当職員だけでなく、全職員が交代で行っている。プランの変更が必要な時はユニット会議に提案して話し合われる。利用者のとらえ方が職員によって異なるので、常に複数で話し合うことにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の出来事は毎日各利用者別に入力し、気になる出来事は職員間で情報を共有し会議等で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話・生活等から変化が見られた時等はご家族に確認する様に全職員意識するよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所以前の生活情報を本人・家族などより聞き取りは行っているが、暮らしを楽しむまでの地域資源の把握や実施には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりかかりつけ医があり、そのままかかりつけ医の受診を希望される場合は、主に家族対応、状況に応じて職員対応にて受信。かかりつけ医がいない場合は、施設対応が可能な病院に定期受信している。	ほとんどが近くの診療所をかかりつけ医としており、2週間に1度事業所で診療所からの訪問診療を受けている利用者もいる。毎週訪問看護師がバイタルチェックを行い日常の様子は申し送りノートで情報を共有し、体調の変化にも対応してもらえる。入居前からのかかりつけ医受診の場合は、日常の様子やバイタルを書き出して家族に渡し、薬の変更等の受診結果を申し送りノートや服薬チェックノートに記入し職員全員で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主に週1度の訪問看護の際、状態の報告・相談を行い、指示を頂いたり処置をしてもらっている。また必要時にはデイサービスの看護師に相談等行い協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の病院に入院する場合、利用者様の状態や病状などの情報交換や退院後のケア(主治医の往診)が出来る為早期の退院に繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	排泄についてのアセスメントを活用し、利用者様に合わせたパット等の種類を検討し利用者様に合わせたタイミングでの声掛けを実施している。	重度化した時、延命治療や胃瘻、経管栄養などの医療処置が必要な場合は対応できないが、通常の老衰の場合は看取りを実施することを入居時に説明している。訪問診療をしてくれるかかりつけ医や訪問看護師、職員全員が連携をとって看取り体制を充実する努力をしながら支援している。かかりつけ医が主宰してデスカンファレンスを行い看取りケアを振り返ることで、職員同士が気持ちを共有し不安解消につながっている。看取りについて不安があったり慣れない職員には個別に管理者が話を聞き対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えたマニュアルはあるが、定期的な訓練は行えていない。理解に関しては個人差がありその都度上司に報告の連絡をし指示を仰ぐことが多い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練・設備点検を行っている。 運営推進委員会でその旨伝える	消防署立ち合いの下で夜間想定も含めて年2回消防・避難訓練を実施し、職員が利用者を布団に乗せて運んだり、キャスター付きのベッドをそのまま掃き出し用窓から脱出させている。緊急連絡網は両ユニットと事務所に掲示しており、職員全員が消火器を操作できるよう訓練している。災害時に備えて水・食品・ランプ・電池・ラジオ・マスク、感染予防品を備蓄している。	避難時に利用者がパニックになる可能性を視野に入れて訓練に臨む等避難訓練の充実を図り、民生委員や地域包括支援センター職員が出席する運営推進会議を通して、緊急時の近隣住民の協力を要請することを期待したい。さらに消防署から指摘をされた非常口の段差を改善することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応・言葉使いを意識し職員間でも注意できるような職場づくりを心がけている。また掃除等で居室に入る際は声掛けをしてからは訪室している。	利用者への言葉使いには常に注意を払うようにし、利用者を人生の先輩として敬意を表すよう心掛けている。トイレ誘導時には小さな声で声掛けし、トイレのドアは閉め、入浴時に着替える時もドアを閉め、清拭する時はバスタオルをかけるなどして羞恥心への配慮を心掛けている。重要書類は、鍵がかかるロッカーに入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を促す際には『○○はどうでしょうか』等利用者が選択し自己決定できるような声掛けを心がけ、日々の言動などからその思いを汲めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全利用者の希望を叶える事は難しいが、できる範囲で希望に添えるよう努めているものの一人一人となると職員体制・人員にも限りがあり十分には行えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは、出来る限り利用者様自身に選んだものを着て頂くようにしている。整容に関しては、化粧水・乳液をつけたり鏡をみて丁寧に髪をとかしているので自室でゆっくりできるよう鏡を置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれ食事形態が違うの為1人1人に合わせた形態で提供している。食事の準備・食事作りや・後片付けなどは、状況に応じて手伝って頂いている。	職員が週に2度スーパーなどに買い物に行き、毎食手作りしている。食事当番が冷蔵庫にある食材を見て、利用者の好みを聞きながら彩りを考え季節の物を取り入れてメニューを決めている。利用者の苦手な食事については個別に対応し、糖尿病などの疾患がある場合はかかりつけ医と相談しながら食事を提供している。利用者の咀嚼能力に合わせて、極刻み、荒刻み、ペースト状にして提供している。時には、利用者の希望を聞いて個別に外食に出かけ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は行っていない。食事・水分量はDrへ相談し必要な利用者様に対して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員昼・夕食後に口腔ケアを行っている。週に1回訪問歯科にて、口腔ケア・義歯調整を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についてのアセスメントを活用し、利用者様に合わせたパット等の種類を検討し利用者様に合わせたタイミングでの声掛けを実施している。	個々の排泄パターンを読み取りながら声掛けトイレに誘導している。利用者に合わせてパットの大きさや当て方は職員同士が情報交換し試行錯誤をして常に検討している。夜間は、ポータブルトイレを使用する人もいればトイレに行く人もおり、職員が事故がないよう気をつけ見守りをしている。転倒によりおむつになったが本人の強い意志と職員の想いで布パンツとパッドに戻った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食前に牛乳を飲んで頂いたり、食事には食物繊維の多く含まれる食材を提供している。 また、排泄時にマッサージをし排泄しやすい状態を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていないが、時間帯は職員の数・体制により決まってしまう。その時間帯のなかで、出来る限りの希望の浴うように支援している。	ユニットにある浴室は一般の住居仕様になっている。利用者が立ち上がりやすいように浴槽内に椅子を置き、滑りにくいように浴槽内外にマットを敷き、職員は滑らないサンダルを履いて入浴介助するなど事故防止に努めている。介護度の高い利用者には、併設されていたデイサービス(現在は同法人の別施設に移転)の機械浴を使い二人介助で入浴させている。入浴時ボディチェックをしてあざや体の異常がないか確認し、あざがある場合原因を推察し記録に残し今後の見守りの強化につなげている。また入浴時リラックスしている状態で、今まで聞けない利用者の本音などを聞くことができケアに役立つ情報が得られる時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースで好きな時間好きな場所で休息されている。就寝時も本人の寝たい時間・起床時も起床した時間で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や服薬管理簿を作成し職員が理解できるようにしている。変更があった時には随時変更している。服薬について特変がみられた時には、主治医に報告・相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調やADLに合わせながら、施設でできる事(炊事・洗濯・掃除・買い物等)やレクリエーションや行事・個別での外出支援等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間帯にもよるが、近隣散歩や床屋への散髪・買い物は行っている。一緒に外出が可能なお家族様にはご協力を頂き一緒に外出される事もある。	利用者の担当の職員が希望を聞き外出支援をしている。デパートや衣料品店、スーパーに行くことや、外食支援も積極的に行っている。今年度は希望を募ってディズニーランドへの日帰り旅行や、那珂川苑に一泊して那須動物王国に出かけ、日頃は見られない利用者笑顔を見る事ができた。遠くに出かけられない人には気持ちを汲み取りながら近所の散歩やドライブをして外出を楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持についてはご家族と相談し許可を頂き金銭管理している利用者様もいる。金銭管理が出来ない利用者様は、ご家族様に許可を頂き施設でお預かりしている。お預かりしたお金は自由に使える事を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があれば電話することが可能だが、現在利用者様からの希望が無い為行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が長く過ごす空間には、季節に合わせた飾りや壁面・行事の写真などを掲示したり空調管理や照明の調節など利用者様が過ごしやすい工夫をしている。	楓と柊の両ユニットはドア1つで繋り、一周することができ歩行訓練などに利用している。ほとんどの利用者が日中を食堂で過ごしており、利用者の状態や相性を見て席を決めている。一人ひとりの体の傾きや足の長さに合わせて座布団で調節し、足載せ台を職員が手作りして体に負担がないように配慮している。食堂は、午前中に足湯や全体体操、個別体操をしたり、午後からは洗濯物をみんなで畳んだりレクリエーションをする場になっている。職員は利用者の様子を見ながら常に目配りをしている。壁には誕生日の写真や外出した時の楽しそうな表情をした利用者の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間が共有空間ということもあり周りの声が聞こえてしまうが、気の合う利用者様同士で過ごすことは可能であり席の場所も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家で使っていた家具(ベッド・タンス・寝具・食器)などの馴染の素を持参して頂き利用者様が使いやすいように居室作りを行っている。 また、暖かい日は外にあるベンチで日向ぼっこして過ごされたりしている。	居室の入り口には、利用者の担当職員が作った名前が書かれたプレートが飾られている。部屋には洗面台、エアコン、カーテン、ハンガー掛けが備えられている。風邪予防のため加湿器を任意で購入してもらい、管理は事業所で行っている。家族の写真や事業所で迎えた誕生日の写真飾っている人、本やテーブル、いす、テレビ、筆筒など好みのものをしつらえている人、荷物が少ない人などがいて、それぞれの暮らしを反映している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室それぞれ利用者様の使いやすいように居室作りを行っている。		